

**総合交通政策調査特別委員会**

**（平成24年9月10日）**

豊田政典委員長

それでは、総合交通政策調査特別委員会を開催いたします。

皆さんお疲れのところ、また議会運営委員会の委員以外の方はお待たせいたしまして、集まっていただきました。急いで皆さんに協議いただきたい事項がありますので、急遽集まっていただきましたことをご了解ください。

芳野議員より少しおくれるとの連絡いただいています。

きょうは、事項書、お手元の1、2の協議と、3、4については報告等ではありますが、お手元に新聞記事のスクラップは配りましたが、参考にしていただければということで配ってあります。

まず、1番、学識経験者等による調査についてということで、前回の委員会で私からも話をしましたし、委員の皆さんから意見をいただいた部分があるんですが、からについて、まず、学識経験者等による調査は必要かどうか、行うのかどうかということ。やるべきだということであれば、として執行部に設置を要請するのか、議会で設置をするのかということ。それから、特に議会で設置する場合、設置というか、議会で置く場合については、調査事項、それから調査期間を当然決めていただかないといけないし、その後、調査していただく方々を決定した上で、議決も必要になってくるということであります。

そこで、その辺の情報も少し事務局等から報告いただきますが、このことを1番に諮らせていただくこと。2番目は四日市市自治会連合会との意見交換についてちょっと相談があります。3番は報告、4番は資料請求や提案があればということで、なるべくさくさくっと終わりたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

傍聴者、新聞社等が入られております。

1番ですけれども、前回近鉄から出されたデータについて、専門的な分析や、また、経営改善についても、鉄道関係者等の専門家の助言や分析をいただく必要性について、少し意見をいただきました。このことについて、皆さん、意見を言っていただいて、前向きに取り組もうということであれば、誰にというのを調査続行したいと思うし、そこまで必要ないよということであれば、今、人を探してもらっておる最中なんですけど、それをストップすることになりますし、やるのであれば早いほうがいいと思うので、なるべく早く進

めたいということで、皆さんに集まっていたいたんです。ご意見をまず伺いたいなと思います。

小林博次委員

これ、数字がもう出ているわけですから、それが正しいか悪いかと言うたって、これは意味のない話やから、必要なら、こんなのは行政側で確認させればいいことではないかと思うんやわね。ただ、例えば学識経験者をどうしても入れたいということであれば、近鉄内部・八王子線をどうやって残すのということ、知識をかりてさまざまなケースを研究してもらうか、我々にサジェスチョンしてもらうか、そんなような使い方のほうが合理的ではないかと思うんやけど。

豊田政典委員長

データ分析よりも、廃線の危機にあるような赤字ローカル線を残すための助言をいただく、そんな依頼をしたらどうかということですよ。

小林博次委員

そうそう。それで3億円がええのか悪いのか、正しいのか正しくないのかと言うんなら、行政に言えば、行政がちゃんとやってくれるよと議長は言うておったけどな。その程度のことではできやんのかと言うたら、行政でやると言うておったけど、これ、議会の範疇を越えてしまうので、そんなことよりも、これを残すために学者の意見を聞くとか、何かさまざまな知恵があるやろうから、それをかりると言うやり方のほうが合理的やと思うんやけど。

豊田政典委員長

という意見ですので、ほかの方も、調査事項、内容も含めて意見をいただきたいなと思います。どうでしょう。どうでしょう。

ちなみに、今、事務局と都市整備部のほうで鉄道に詳しい方を探してもらっているんですが、どんな様子かというのも、じゃ、参考のために少し報告いただきたいと思いますが、事務局。

栗田議会事務局主事

済みません。失礼いたします。

事務局のほうで探させていただいてはいるんですけども、まず、和歌山電鐵の貴志川線というものが、執行部のほうより、数少ない改善した事例として報告されておるというところなんですけれども、そちらの鉄道事業者の方を当たってみてはどうかという部分で、まだ先方さんに全然お声かけもしてない状態なんですけれども、済みません、その程度までのお調べしかできてないような状況でございます。

豊田政典委員長

あとはどんな方法で調べて、どんな様子かというのを少し、もう少し言ってください。

栗田議会事務局主事

事務局としましては、執行部と連携しながらという形になろうかと思うんですけども、基本的にはもうインターネット等の情報ツールを使ってお調べさせていただいて、当たっていくしかないのかなというふうに考えてございます。

豊田政典委員長

報告すれば、なかなか適当な人が今のところ見つかってないそうです。今の調査段階では。

都市整備部はどうですか。検討いただいていますか。

伊藤都市整備部長

私ども、小林委員が言われたうちのその数字の精査というところを、どなたか専門家がいなかったというふうなところで、今、探しておる最中でございますけれども、その1人の候補として、養老鉄道、近鉄から養老鉄道が分社化されたときに関係していただいた公認会計士さんがおみえになられますので、そちらにちょっとお話を伺いに行ったんですけども、どちらかというと、近鉄の内情をよくわからないもんだから、現状認識、追認でしかないかもしれませぬというふうなことで、余りこう詳しい内容というのは言えま

せんよというお話を伺ってまいりました。だから、またそういう専門家を、違う方をもっと探さなければいけないというふうな感じなんですけれども、ちょっと私どももどうやって探るか、手をこまねいているというか、あぐねている最中は最中でございます。

豊田政典委員長

という状況だそうです。なかなか今の話で言うと、もらったデータの分析というのは、バックデータがないもので、もらったやつでしか判断できないとすれば、数字以上のことは難しいだろうということですよ。

それから、鉄道交通の専門家ということで、事務局や都市整備部も調べてもらっていますが、なかなかない。なかなか見つからないですよ、今のところ。ということも踏まえながら。

諸岡 覚委員

学識経験者をお招きして調査するというのは、それはそれで私はいいと思うんですけども、もし今の状況って、むしろこっちが何を聞いていいのかわからないから、よう見つけやんのと違うのかなと。例えば鉄道のプロと言っても、鉄道経営のプロもいれば、その機体というんですか、車両の専門家もいれば、鉄道財政の専門家、いろんな分野があると思うんです。鉄道の中にも。こっちが具体的に何を調べて、何を調査したいのかが明確じゃないのに、その学識経験者を絞り込むことって、やっぱり難しいと思うんですよ。だから、最初に学識経験者を呼ぶのが前提じゃなくて、調査の過程でこれがわからんと、これちょっと幾ら何でも専門家の意見を聞かなあかんぞというところで、初めて学識経験者の招聘ということになるんじゃないのかなと。何かちょっと順番が逆になるんじゃないかなと、個人的に思うんですが。

豊田政典委員長

当然そうなんです、前回の議論の中で出たんですよ。それが。これは、専門的知見等を活用してやるべきじゃないかという意見が複数出されましたから、一部調査を始めてもらったけれども、続けたほうがいいのかどうかという相談で、今、言われるように、はっきりしてないのは確かです。そうであれば、今の段階ではまだそこまで決めなくていいよ

ということであれば、諸岡委員はそうだと思うんですけど、現段階での人探しというのはとりあえずやめますけど、一方、小林委員の言われるような専門家というか、どんな方なのか、いろんな方がみえると思うけど、何ですかね、助言をもらう人ですか、そういうのを探すという方法もあるかなと思うんですけど。ざっくばらんにちょっと聞きたいので、集まってもらったんですけど。

土井数馬委員

小林委員が言っておりましたように、数字的なものは、はっきり言って黒字だったらこんな問題は出てきてないから、赤字は確かなんですけれども、その額が問題かどうかですね。今、市と協議している中で、市が運営費はもう出せないと言っているわけですから、額が幾らでも今は出せやんような状態なもので、そこで煮詰まってきた時点で、数字が幾らかで出せるか出せやんかという、そこまで煮詰まってくれば、また、数字のことは、さっき言った公認会計士か、どんな方かわかりませんが、詳しい方が調査するのもよしでしょうけれども、今はその段階じゃないような気がしております。何か助言というか、今のような話でいただけるのであれば、それもそれでいいですし、その進みぐあいでもう構わないんじゃないのかなとは思いますがね。意見ですけれども。

豊田政典委員長

ありがとうございます。

ほか、どうでしょうか。もう少し委員会の議論、それから、近鉄の交渉の進みぐあいを見ますか。

芳野正英委員

前、委員会で提案、提案というか紹介させてもろうた上田電鉄の別所線というのがあるんですけど、そこへ実際視察に行ってみようかなと思っておったんですけど、逆に言うと、そこの経営しておる方を呼んで、例えばですけど、今回のその近鉄内部・八王子線にしても、車両整備に何人かけておるとかという、僕らが考える以上に結構人員は雇用しておるんやなと思ったんですけど、実際に例えばその鉄道経営の中で、車両整備ですとか、その安全面点検で、じゃ、一体どれぐらいの人員配置が必要なのかというのは、なかなかわか

らないと思うんですね。僕らもその専門家じゃないので。例えばそういう路線を経営してみえる方に来ていただいて、企業側としてどれぐらいのコストですとか、どういったものがあるというのは、最低限かかるという認識を確認するという部分では、一つありなのかなと思うのと、そこも赤字解消のためのいろんな施策をと言っていて、この前もお話ししたように、自治会に向けて応援回数券みたいなのを、販売協力をしてもらっているので、一つとしてはそういう現状をお聞きするなら、聞くのでいいのかなと思っているんですけど。一遍実際視察に行きたいなと思っていたんですけど、それなら逆にお呼びして、皆さんでいろんな面から、角度から、聞いてみるのもいいのかなと思ったんですけど。

豊田政典委員長

今の意見について、小林委員、どうですか、じゃ。

小林博次委員

そういう考え方のほうがええんじゃない。近鉄にこのデータが本当かどうか聞いたって、そんなもの信用するしかあらへんやろうね。だから、何かええヒントがあるかもわからんし、我々もわからんこともあるんやわな。だから、その辺は、呼べば話のよくわかる人が来てくれる可能性があるんで、それはもう大賛成やな。できるだけ早いほうがええな。

森 智広副委員長

前回の会議のときに、私も有識者を呼ぶ提案をさせてもらったんですけども、やはり土井委員とか小林委員がおっしゃられたように、まだその段階にはないと言え、ないかもしれませんが。いろんな条件が出そろって、運営費補助の話になるのかならないか、わからないですけど、いろいろなケースが出てきたときに、第三者的な意見を求めるのはありかもしれないですけど、この段階で経営分析まで、まだちょっと早いかわからないですねと思います。ただ、そういう意味では知識の蓄積という意味で、芳野委員が言われたようなインプットはいいのかもしれないですけども、それは会議体というか、その組織立たないものですよ。だから、講師を誘致という形。

豊田政典委員長

講師というか、参考人みたいな感じですね。

土井数馬委員

テレビでも何例かそういうのをやっているんですよ。きょうちょっともう忘れてきましたけど、芳野委員の例もあれば、ほかにも僕、二、三、テレビで見たことがあるんです。ちょっと走り書きなもので、また後で持ってきますけれども、そういう例もありますので、そういう成功例というか、失敗例でもよろしいわね。別に。いろんな例を調査研究ですので、ああ、あかんだということで、いろんな例を出していくのもいいと思いますので、それはもう賛成ですね。そういうやり方は。

豊田政典委員長

という意見でまとめさせてもらっていいですかね。土井委員や芳野委員から、また具体的な提案をいただければと思いますし、その間にも事務局のほうでも調査を続けてもらって、早目にその案をつくりますので、参考人の先生を呼ぶという形になると思いますが、また、もしかしたら急遽集まってもらうかもしれませんが、ぜひご協力をいただきたいなと思います。

そうしたら、それを受けとめて、また教えてもらいながら、1回具体的に探してみたいと思います。それで、よろしいですか。

(異議なし)

豊田政典委員長

ありがとうございます。

それでは、1番はそんなことで、こっちで準備を進めていきますので、また集まってください。

じゃ、2番です。

前回、特別委員会の後に、夕方に意見交換をということで、3案を向こうに、四日市市自治会連合会のほうに提案をしました。本日、四日市市自治会連合会の役員会があって、決定されていると思います。事務局に連絡があったと思いますから、連絡があった内容を



報告してください。

栗田議会事務局主事

失礼いたします。

四日市市自治会連合会のほうに11月6日、11月20日、11月21日の3案を提示しておりましたけれども、本日ご返事のほうがございまして、11月20日の午後5時からという形でまとまったということでご報告いただきましたので、よろしく願いいたします。

会場についてなんですが、商工会議所で行うというふうな報告を受けておりますので、また、改めて細かい内容は報告させていただきますが、そういうふうなことで決まったということでございます。

豊田政典委員長

我々の3案に対して日程の返事が来まして、11月20日午後5時から1時間半ないし2時間ということで返事が来ましたので、皆さん、予定を調整してぜひ参加をいただきたいなと思います。

加えて、向こうからの提案ですが、午後7時から、四日市市自治会連合会の皆さん、役員さんは28人参加するそうですが、時間的に弁当をとって食事をするそうです。総合交通政策調査特別委員会の皆さんも1500円かかりますが弁当を手配しますので、ぜひ食事を引き続き30分くらいつき合いませんかという提案が来たんです。皆さんに諮って答えますということにしておきましたので返事はまだしておりませんが、これについて、ご都合はいかがでしょうかという相談です。

日置記平委員

弁当を食べたい人だけ行くやわ。意味ないやん、こんな弁当みたい。弁当抜きの協議の続きならいいよ。これ、弁当食べて何するの。

豊田政典委員長

そういう意見もあります。どうしますか。

日置記平委員

同じ日やろう。

豊田政典委員長

そうです。終わってから。皆さんも食事はどうですかという提案だと思います。

諸岡 覚委員

ちょっと明確に確認したいんですけど、それは会議中に夜にかかってくるので、お弁当を食べながら会議をするのか、あくまでも会議は一旦終わってからの懇親会なのか。

豊田政典委員長

四日市市自治会連合会の事務局さんと話をしたんですけど、会議は一旦終わって、向こうが、その時間なら、我々は食事を一緒に食べますと。で、議会の皆さんもよかったら参加し、一緒に食べて意見交換を続けませんかという提案です。区切りがあるんです。

伊藤 元委員

19時から意見交換会ですね。

豊田政典委員長

ちょっと待ってください。5時からです。

伊藤 元委員

5時からの意見交換会は何時間する予定でしょうか。

豊田政典委員長

意見交換会は5時から6時半ないし7時までです。1時間半か、僕らが1時間半と言ったんですけど、1時間半を少し延びたら7時とってください。この食事会については、7時のスタートで、事務局さんの話だと、30分ぐらいですと言っていました。食べる間です。一緒に食べませんかという誘いです。

小林博次委員

もっと他のところでやればいいのに。

豊田政典委員長

場所についても向こうからの提案なんです。

諸岡 覚委員

さらに、念を押して聞きたいんですけど。

豊田政典委員長

ちょっと待って。場所についても、前に、去年、全員協議会室でやったのが、今回はこちらも多いし、全体の人数が多くなって、ちょっと席が足りないかもしれないので、よかったら商工会議所があいていますから、机の並べ方も自由にできるので、こっちにいらっしやいませんかという相談です。食事もそこなら食べられますよという相談です。

諸岡 覚委員

念を押して聞きたいんですけど、その時間で1500円の弁当というのは、まさかとは思いますがビールがついているとか、そんなことはないですね。

豊田政典委員長

そこまでは確認をしておりません。ちょっと想定していなかったから。

加藤清助委員

会議の時間は午後6時半か7時ぐらいまでと委員長が言われて、その後も弁当を食べながら意見交換と言われていましたけど、そこはちゃんと区切りをつけてもらって、意見交換会は午後6時半か7時で終了して、食べたい人らが行くのもかもしれないけど、それはこの委員会としても意見交換の場にはならんと思うもので、もう一回、ちゃんと区切りをつけてもらって、一遍解散するとか。

豊田政典委員長

いろいろ意見が飛び交っていますが。

森 康哲委員

記録はどうなるんです。

豊田政典委員長

記録。その食事会のほうですか。

森 康哲委員

いやいや、この場だったら録音できますよね。

豊田政典委員長

意見交換会ね。例年はどうやっているか、わかりますか。事務局。

清水議会事務局副参事

全員協議会室であれば、録音はとっているんですけど。

諸岡 覚委員

主催はどっちなの。

清水議会事務局副参事

主催は市議会です。例年、こちらから文書を出しておるもので。

豊田政典委員長

もう一回、じゃ、ちょっと、マイクないですか。ちゃんと答えて。いろいろ質問が出ていますので、例年の例を答えてください。主催と記録について。

清水議会事務局副参事

例年、四日市市自治会連合会さんのほうから申し入れされた上で、こちらから文書を議長名で出しておるとい形をとっておりました。ですので、全員協議会室で意見交換していただいておりますところも、録音は可能でしたので、録音させていただいて、要点をまとめるというようなところはあったかと思えます。

豊田政典委員長

今まではそうやっていました。例に倣おうかなと思っておりますが。

諸岡 覚委員

事務局に質問なんですけど、私が聞いていたのは、四日市市自治会連合会さんのほうから議会に対して意見交換会の申し入れがあって、議長なり、議会四役会議か何かの采配で、この委員会にそれが振られてきたという認識なんですけれども、そうすると、あくまで主催者側というのは四日市市自治会連合会なんじゃないの。こっちはお招きされて、お話の場に行くという立場だと思ったんですけど、こっちがお招きしたわけですね。四日市市自治会連合会さんを。主催者はこっちなんですね。ちょっとよくわからん。

清水議会事務局副参事

済みません。お招きというのはあれですけれども、要請は四日市市自治会連合会さんからあった上で、例年の形ですと議長名で通知を出しておるということでした。その主催をどうするかというところについては、まだ協議の余地はあるかと思えますので。

豊田政典委員長

毎年そうなんです。向こうから要請が来て、こっちが主催でやってきたそうです。

日置記平委員

例年って、例年ではないやん。これはことしから始まっておるんやで、例年の場合とは違うやん。問題が。だから、例年というのは外さないといけない。だから、この総合交通政策調査特別委員会のテーマなんだから、だから、主催をはっきりしておかないかん。そ

れで座長がいるじゃないですか。だから、我々が主催なら、そんな話は委員長からなかったと私は記憶しているけど、我々が主催するんだったら、ここですればいいんやし、向こうの会場を選択した人は誰なん。四日市市自治会連合会やろう。四日市市自治会連合会が向こうを選択して、自分たちの意向でぜひ参加してくれという要望と、私は受けとめておるけど、もう一回説明してくれん。

豊田政典委員長

今までは対象は違いますが、例えば去年は1期生の議員の方と意見交換をしました。そのときも四日市市自治会連合会から要請が議会に来たんですね。だけれど、形上、議長から四日市市自治会連合会に対して出席要請の文書を出して、こちらが主催という形で座長もやり、全員協議会室でやったんです。その例になりますかということも含めて。

諸岡 覚委員

議長名で向こうに出席要請の紙を出しておるわけですか。

豊田政典委員長

前はね。

諸岡 覚委員

今回は。

豊田政典委員長

今回は、これ別に決めがないので、僕はそれに倣おうかなと思っていましたが、異論があれば別にいいんです、どっちでも。協議の余地あります。

日置記平委員

委員長の気持ちはちょこっとわかったけど、要するに球を投げた人は四日市市自治会連合会やろう。そうやん。これ間違いないやんか。ここだけ確認したい。

球を投げた人は誰かと言っているの。

清水議会事務局副参事

四日市市自治会連合会さんからお話をいただいたということです。

日置記平委員

聞かれましたね。四日市市自治会連合会から依頼があったんやん。それは議長にあったのか、豊田委員長にあったのか、どっちなんやね。

清水議会事務局副参事

議長にあったということです。

日置記平委員

議長から委員長にはあったんですか。

豊田政典委員長

ありました。

土井数馬委員

四日市市自治会連合会から要請があって、議長が受けて、議長が代表者会議に諮問してきたわけです。代表者会議で、この特別委員会でどうやということで、いいやないかということで、それから、代表者会議、それから議長から委員長に行ったはずですけど。この会議で諮って、いいじゃないかと決まったんですから、やはり主催は向こうですね。

諸岡 覚委員

いや、事務局が主催はこっちやって言ってたけど、違うの。

土井数馬委員

いやいや、今までの例でいくとやろう。

日置記平委員

私の頭では、今、皆さんの頭の中ではもう決まっているよね。球を投げた人は四日市市自治会連合会だけど、四日市市自治会連合会が主催なんですよ。だから、うちの議会のうちが主催と決めてないじゃない。だから、四日市市自治会連合会から申し入れがあった。それを議長が受けた。そして、委員長が受けた。それで、会場は商工会議所。ここまでと違うの。だから、主催は四日市市自治会連合会で、日程の事項書は四日市市自治会連合会さんが決めてみえる。それに私たちは参加してお互いに協議をすると、ここまでいいんじゃないの。

諸岡 覚委員

まとめの発端は森委員の記録はどうかという質問から入ったんですけれども、要するに記録する義務があるのはどっち側に義務があるのかという話なんですわ。

日置記平委員

当然向こうやないですか。

諸岡 覚委員

自治会側に記録義務があるのか、こっち側に記録義務があるのか。

小林博次委員

諸岡委員、よろしいですか。別に記録義務がある、ないにかかわらず、間違えて伝えるとあかんから、テープレコーダーを入れて録音させてもらうという確認をして、録音をして、それで、持って帰ると、もうその程度のことやに。どっちが主催であっても、どっちみち四日市市自治会連合会は議会にどなりつけるか、議会に頼むか、どっちかなので、この場合は頼まれるわけや。我々が。けつをたたかれる。それだけのことですやないか。

土井数馬委員

それと、会議が6時半なら6時半で切ってもらって、弁当は有志で食べてもらえば。会議は6時半まで。それでよろしいんじゃないですか。



豊田政典委員長

そうしたら、整理しますと、四日市市自治会連合会主催でやってもらうと。場所については提案があったように、商工会議所に我々が行くと。時間をはっきりして、午後5時から6時半か7時まで、任せてもらえれば、はっきりしておきます。そこまでいいですか。

(異議なし)

豊田政典委員長

テーマとか司会も向こうに依頼する。これでええですか。

(異議なし)

豊田政典委員長

食事のほうですけど、有志でもいいんですが、数を言わなあかんと思うので、また、先でええやね。11月なんで。今、予定を持ってない方もみえると思いますから。

小林博次委員

弁当いる人に手を挙げてもらったらええやない。

豊田政典委員長

今、聞きますか。今、聞く。

じゃ、ちょっといい。

日置記平委員

そんなん、後でええやない。

豊田政典委員長

急ぎということは聞いてない。その返事はいつまでというのは聞いてないね。

わかりました。そうしたら、これはちょっと有志やということで返事しておきます。

じゃ、2番の件、そういうことでよろしくをお願いします。

時間かかって申しわけない。

3番、さきに近鉄ホームページの内容の修正ということ、当委員会の意見として都市整備部をお願いをしました。都市整備部で協議していただいた結果の報告をお願いします。

館都市整備部理事

前回の特別委員会で、ホームページに対して文書できちんと抗議すべきじゃないかというご意見を頂戴いたしました。先週の段階で、近鉄とも連絡をとる時間あるいは協議する場がありましたので、そういった話もあり、市としては文書で抗議したいということをもまず伝えさせていただきまして、内容の文案がもうほぼかたまりまして、今、内部決裁中でございます。あすにでも発送できる状況になってございます。

内容としましては、BRT、いわゆるバスの問題については正式な協議にまだ載っていないわけではないという点、それからBRTに転換するかどうかということは近鉄の経営方針に係ることであって、市が決定することではないということをお知らせするという内容にしております。

以上でございます。

豊田政典委員長

という報告をいただきました。

この件、よろしいでしょうか。

(異議なし)

豊田政典委員長

最後、四つ目ですが、次回の特別委員会は11月6日、既に決まっているやつは随分間がありますから、現時点でさらに追加資料請求があれば出してもらいたいのと、それから、近鉄との協議がその間もあると思います。いつあるか今から答えてもらいますが。予定があれば。そこで、こういうことを聞いてほしいとか、提案があれば、聞いておきたいなど

というのが最後です。次の協議の予定は決まっていますか。

館都市整備部理事

今回は議会がちょうど一段落したころにということで、10月4日で今、予定しております。

豊田政典委員長

ということで、資料請求、追加で、それから、協議のときの何か提案があれば出してください。ありますか。

諸岡 覚委員

協議のときに、今、言った、言わないみたいになっておるもので、明確に先方からこっちに、例えば、今は口頭で30億円だとか何だかんだ言っていますけど、要求があるのであれば、文書で1回くれと。そうやないと、こっちも正式な要求、要請をもらってないから動けやんというスタンスもあるので、その辺をきちっと文書でやりとりするように、今後の協議全て。文書をきちっとつくるようにということを、ちょっとお願いしていただきたいです。

館都市整備部理事

協議として、まず、言葉でいろいろやりとりをして、これまでもというか、前回、昨年12月と1月の時点での文書のやりとりは、それまでの議論の経過を踏まえて、ここで一旦整理すべきだということで、文書のやりとりをいたしました。したがって、今後も当然任意でいろんなアイデアがあったりしますので、そうしながら、きちんとしたところではその今ご提案いただきましたように、文書でちゃんと交わしておこうと、そういうふうな思いでございます。その方向で、また近鉄と協議させていただきます。

豊田政典委員長

ほか、どうでしょうか。よろしいですか。

(なし)

豊田政典委員長

それでは、こちらで用意したのは以上でございますので、終わりたいと思いますが、最初に申し上げたとおり、また本会議や常任委員会中に声をかけるかもしれませんので、その際は協力をよろしくお願いします。どうもありがとうございました。失礼します。

17:25 閉議